

名古屋 文化 情報

2018
3・4
March / April

No. 379
NAGOYA
Cultural
Information

特集 / 2017 1年をふりかえって
平成29年度名古屋市芸術賞・名古屋市民芸術祭賞



2018

3・4

March / April

Contents

名古屋市文芸祭 受賞作品…………… 2
 2017 1年をふりかえって…………… 3
 平成29年度 名古屋市芸術賞…………… 9
 平成29年度 名古屋市文芸祭賞…………… 10
 おしらせ…………… 12

「なごや文化情報」編集委員

- 上野 茂 (ナゴヤ劇場ジャーナル編集長)
- 森本悟郎 (表現研究・批評)
- 山本直子 (編集・出版 有限会社ゆいぽと代表)
- 吉田明子 (人形劇団むすび座制作部長)
- 米田真理 (朝日大学経営学部教授)
- 渡邊 康 (椋山女学園大学教育学部准教授)

表紙

作品
 アート & ブレックファスト ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア
Art & Breakfast Las Palmas de Gran Canaria

(2017年/CAAM-Atlantic Center of Modern Art (グラン・カナリア島(スペイン))、旧サン・マルティン病院の備品他 / インスタレーション)

Art & Breakfast は世界各地で展開する滞在制作のシリーズ。カナリア諸島では童謡「かなりや」をヒントに、古い病院跡に眠る物たちが、美術館の一室で音楽を奏でているような空間作品を創作し、自身の制作の根源を追想。



三田村 光土里 (みたむら みどり)

1964年 愛知県長久手市生まれ
 1994年 現代写真研究所基礎科修了
 2005年 文化庁海外派遣芸術家 / フィンランド
 2006年 個展「Green on the mountain」/ ウィーン分離派館
 2016年 あいちトリエンナーレ2016 / 愛知県芸術文化センター
www.midorimitamura.com

「2016年 名古屋市文芸祭」
 (第六七回名古屋短詩型文学祭) 小・中学生の部
 詩の部 受賞作品より

※受賞時の学校・学年で掲載しています。

◆市教育委員会賞◆

名古屋市立あずま中学校二年

大藪 さつき

ドウコク

片目のない子供が
 歪んだ世界を見た
 もう片方の目に映るはずの幸せが
 見えないまま

片耳のない子供が
 耳を劈く悲鳴を聞いた
 もう片方の耳に届くはずの歌声は
 聞こえないまま

片手のない子供が
 全てを貪る闇の尾を掴んだ
 もう片方の手を包み込む
 温かい温もりも知らないまま

片足のない子供が
 崩れかけている橋に身を乗り出した
 もう片方の足が踏ん張るはずの
 偉大な大地に気付かないまま

2017

1年をふりかえって

洋舞 長谷 義隆(中日新聞放送芸能部編集委員)

名古屋の洋舞シーンはバレエ、ダンスを習う生徒の減少と主宰者・指導者の高齢化による、少子高齢化の影響が顕著に現れた年だった。

かつて「名古屋四大バレエ団」といわれた1985年創設の松本道子バレエ団は、3月の二十世紀バレエ名作選の「トリプルピル・アンコール」公演を最後に、費用がかさむ大ホール公演を打ち止めにしたのはその典型である。戦後の洋舞シーンをリードしてきた戦後第一世代はもとより、さらにその弟子の第二世代についても世代交代、事業縮小の傾向は強まりつつある。

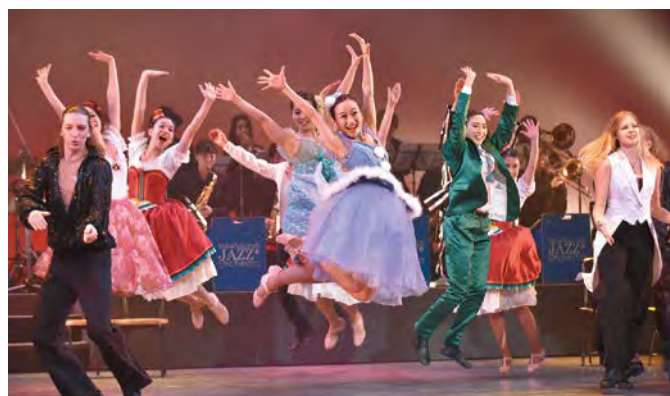
名古屋“二強”の松岡伶子バレエ団、越智インターナショナルバレエも、生徒の減少=観客の減少に直面し、全幕バレエの二日間の上演を一日公演にせざるを得なくなっている。

舞台成果では、越智バレエの『新・白鳥の湖』が特筆される。長年、プリマバレリーナを張っていた越智久美子が二代目の代表兼芸術監督を継承し、二作目。国際経験豊かな久美子のバレエ芸術に対するプロ意識、見識が隅々まで浸透し、老舗復調を印象付ける好舞台となった。

一方で、男女とも厚いダンサー層を築いた松岡バレエだが、定期公演の『白鳥の湖』はドラマとしての流れがたびたび寸断され、意外な出来だった。近年伸長する岡田純奈バレエ団は個性的なソリストが数多く必要な『ドン・キホーテ』に挑んだが、“コマ”不足は否めず、無理に背伸びした印象はぬぐえなかった。



越智インターナショナルバレエ『新・白鳥の湖』
撮影 岡村昌夫(テス大阪)



日口合同のダンスを披露した三代舞踊団クリスマス公演

創作では、テアトル・ド・バレエカンパニーが恒例の常任振付家二人による創作バレエ公演を開いた。浦島太郎伝説をもとにした新作『竜宮』で、振付の井口裕之は巧みな作舞に才気を発揮したが、物語の骨格がぼやけたのが惜まれる。ベテランの深川秀夫はシンフォニックバレエの旧作二作品をテアトルの他、川島ナナバレエ研究所の名古屋公演で上演した。しかし、深川の体調は万全とはいえず、今後、新作を創造できるのか。名古屋のバレエ界をリードしてきた振付家であり、病後の活動に注目したい。

現代舞踊では、現役最長老の関山三喜夫が「米寿の会」で、往年のモダンダンスを披露した。中堅では倉知可英が活発。ニューヨーク自主公演に打って出たほか、異色のフラメンコダンサー加藤おりとは組んだジョイントリサイタル「KA・SA・NA・RU」で、異ジャンル競演の実を上げた。ジャズダンスでは三代舞踊団が躍動。三代真史は『Mの思想』で、現代に生きる武士道精神をストイックな表現でみせた。交流するロシアの舞踊団も単独招へいし、クリスマス公演では日口合同のはじけたダンスを披露した。

外来、招来公演では「ルグリ・ガラ」、上海歌劇団『朱鷺』が出色。愛知県芸術劇場は「バットシエバ舞踊団」などの招へい公演を催したが、近年は地元の才能を発掘、起用しようという姿勢が薄い。大規模な改修はホールだけでなく、むしろ事業の方向付けにこそ必要だろう。

演劇 小島 祐未子(編集者・ライター)

地元演劇界最大のイベントとなったのは9月の「劇王Ⅺ～アジア大会～」だろう。日本劇作家協会東海支部と長久手市文化の家が開催している短編戯曲のコンペティションに、韓国、香港、シンガポールの演劇人が参加。日本各地の予選を勝ち抜いた猛

者たち、現・劇王(チャンピオン)を含む13人の劇作家が上演を通じて火花を散らした。結果、東海支部長でもある平塚直隆(オイスターズ)が、ナンセンスな笑い和不気味さの入り交じる『救急車を呼びました』で劇王の座を防衛。その後、支部長は鹿目

由紀（劇団あおきりみかん）に引き継がれ、平塚は有終の美を飾る形で大役を終えた。

平塚と近い世代では、刈馬演劇設計社の刈馬カオスが近代劇の大作家・三好十郎の『胎内』に挑戦し、気を吐いた。刈馬は、三好が第二次世界大戦終結から4年後に発表した戯曲の中に日本の現在と通じる空気を嗅ぎ取り、キャストを変えて趣向の異なる2バージョンを発表。定評のあった演出力に磨きをかけた。

次代の担い手が数多く参加する「第四回名古屋演劇杯」では、異色の一編で勝負に挑んだ稲垣僚祐『ルールステージ2017』が大賞と最優秀俳優賞をW受賞。私自身、未知の才能との出会いを喜んだ。同大会参加作品としては初の一人芝居で、簡素極まる幕開けに疑心暗鬼だったが、稲垣は落語や演芸の要素を織り交せて鉄道ネタと自虐的人生回顧を展開。自ら音響や照明などのスタッフワークも務め、演劇の根幹を考えさせてくれた。

そして年の瀬に差し掛かり、驚くべき作品に遭遇。ひとつは、てんぶくプロのアトリエ公演「超・立・体・朗読劇『五色の舟』」だ。津原泰水の同名小説を型破りな朗読劇に仕立てた本作では、小説の世界観と劇団の個性が好相性を見せた。舞台は太平洋戦争末期の広島。見世物で生計を立てる異形の人たちや半人半牛の「くだん」の存在などダークな幻想性漂う物語だが、舞台にはポップな空気があふれる。独白と群読を巧みに使い分け、シンボリックな動作で想像力を刺激し、さらに生演奏や歌まで！ 英1980年



てんぶくプロ 超・立・体・朗読劇『五色の舟』
撮影 山崎のりあき



ロフト DE クリスマス『悪魔のいるクリスマス』

代ポップスの名曲『エノラ・ゲイの悲劇』に合わせて踊る姿には思わず涙ぐんだが、何より泣けたのは空間に対する執念だ。てんぶくプロは長年、アトリエを既存の劇場では不可能な異空間へと変貌させてきた。現在の「アトリエ昭和薬局前」は民家の2階座敷にあたるが、彼らは階段やガラス戸はもちろん奥の別棟も生かし、とんでもない広がりやを創出する。そうかと思えば、前列しか見えない舞台美術で遠くの街を表現。繊細さを乗り越えた空間への異様な愛情に、ベテラン劇団の真骨頂を見た。

また、もうひとつの驚きもベテランによってもたらされた。「ロフト DE クリスマス」と銘打ってナビロフトが製作した『悪魔のいるクリスマス』。北村想の80年代の名戯曲を、北村自身が15年ぶりに演出した作品だ。登場人物4人のうち、作家役の小熊ヒデジ以外は経験の浅い若手ばかり。しかし北村は若手の無垢な部分を引き出し、聖夜のピュアな物語を成立させた。特に少女が「月の沙漠」を歌う場面は、過去観たものとは全く違って映り、圧巻。人類の歩み、神との関係などを思い巡らしながら、あらためて演劇人・北村想の凄みに震えた。

なお、他にもナビロフトは様々な企画で賑わった。関西の劇場や作家と連携して名古屋初登場の劇団を迎えたり、日本劇作家協会とともに人材育成に尽力したり、劇場の存在意義を力強く提示。劇場プロデューサー・小熊ヒデジの活躍が印象に残る1年でもあった。

洋楽 ▶ 早川 立大(音楽ジャーナリスト)

栄地区の愛知芸術文化センターの改修工事が本格化した。小ホールは秋に再開したものの、コンサートホールが8月から休館。名古屋フィルハーモニー交響楽団が定期演奏会の会場を日本特殊陶業市民会館に移した。2018年は新たに大ホールが4月から、また室内楽のメッカともいべき伏見地区の電気文化会館ザ・コンサートホールが1月から、三井住友海上しらかわホールも8月から、それぞれ天井耐震工事のため長期休館する。演奏家・演奏団体が会場探しに苦労するなど、影響は大きい。

〔声楽〕オペラでは名古屋二期会によるヴェルディの傑作『椿姫』を挙げたい(9月29&30日、愛知県芸術劇場大ホール)。簡素な美しい舞台、ダブルキャスト制ながらヴィオレッタ役のソプラノ

村島増美、岩田千里をはじめ出演歌手陣の健闘、オーケストラから室内楽的な精緻な響きを引き出した俊英、角田鋼亮の指揮が一体となって、見事な舞台を創り上げた。名古屋二期会は名古屋市芸術創造センターとの連携企画になるオフエンバックのオペレッタ『天国と地獄』(3月4&5日)でもいきいきとした上演に貢献したほか、加藤典子追悼演奏会を主催した(11月6日、ザ・コンサートホール)。加藤は名古屋二期会の創立メンバーであり、追悼演奏会には男女18人の歌手が出演し、モーツァルトの『フィガロの結婚』をはじめ、加藤が出演したオペラ作品のアリアや重唱など23曲を熱唱、山本敦子のピアノも光った。会場ホールには舞台写真などが展示され、この地方の音楽シーンに一時代を

画して2月に亡くなった名ソプラノの足跡が紹介された。日本の歌曲を取り上げたメソソプラノの大橋多美子（10月17日、同）、日本歌曲連続演奏会を第15回で締めくくったソプラノ佐地多美（11月10日、同）、名古屋市民芸術祭の審査員特別賞を受けたソプラノ渡部純子（10月7日、同）の各リサイタルが記憶に残る。

〔器楽〕オーケストラでは、小泉和裕音楽監督指揮下の名古屋フィルハーモニー交響楽団と、ハンス・スワロフスキー音楽監督のセントラル愛知交響楽団がともに水準の高い定期演奏会を重ねた。名フィルでは川瀬賢太郎指揮の第443回定期がプロコフィエフのカンタータ『アレクサンドル・ネフスキー』など素晴らしい出来（2月24&25日、愛知県芸術劇場コンサートホール）。セントラル愛知響では、角田鋼亮が自らの名古屋音楽ベンクラブ賞受



〔加藤典子追悼演奏会〕のホール展示（ザ・コンサートホール）



〔ふたりのアランフェス〕（5/R音楽ホール）

賞記念として指揮した第154回定期で、チャイコフスキーの交響曲第3番『ポーランド』に克明な光を当てた（5月12日、しらかわホール）。室内楽では、モーツァルトの後期ピアノ協奏曲8曲を室内楽版で取り上げたピアニストの五島史誉と弦楽器奏者たちの2回の演奏会が有意義な企画（4月15日、7月15日、宗次ホール）であった。ギターの酒井康雄とピアノの伊藤仁美の「ふたりのアランフェス」はスペイン音楽の光と陰を美しく描き出した（7月11日、5/R音楽ホール）。その酒井は11月下旬に病没したので、この名ギタリストの実演を聴いた最後の機会となった。ベテラン廣瀬恵子がフンメルとショパン各々の『24の前奏曲』を柱としたピアノ・リサイタルも感銘深かった（6月30日、ザ・コンサートホール）。声楽の大橋や佐地の歌唱、ピアノの伊藤や廣瀬の演奏に接すると、「円熟」という言葉の意味を実感できる。

能楽 ▶ 竹尾 邦太郎(能楽評論家)

1月2日、注連を張り巡らせた清々しい舞台に能楽協会名古屋支部一同の「新春謡初め」会。満席の見所賑々しく目出度い。翌3日「名古屋能楽堂正月特別公演」は恒例『翁』。いわゆる翁役者とも言えようか、シテ久田勘鷗、千歳に今回も嫡男・勘吉郎を得て息の合ったところを見せ天下泰平。能は脇能でなく、長恨歌に取材の『楊貴妃(台留)』久田三津子。玄宗皇帝の執心、一途に思い寄せられては居ても如何ともし難く、ただ昔日の思いに静かに浸るのみ、品位。幽明を隔て、中に立つ方士(ワキ飯富雅介)、重い務めをさらりと果して安堵の印象に芸劫。小書「台留」は蓮の台(蓮華の座)に留まる心。

3月「能楽堂定例公演」『高砂・作物出』シテ衣斐正宜。小書で松の立木。旅の途次、阿蘇の主神・友成(ワキ高安勝久)と出会う前、辺りに人のいない処で姥(ツレ内藤飛能)と「木蔭の塵を揺かうよ」と落葉を浚え、庭を清める姿に



〔高砂・作物出〕名古屋能楽堂三月定例公演
左シテ 衣斐正宜、右ツレ 内藤飛能
撮影 杉浦賢次(能楽写真家協会会員)

相生の松の精の気韻。後シテは神舞の颯爽に謹直重厚な趣。

5月「能楽堂開館20周年記念特別公演」として本祝言物とされる『石橋・大獅子』。渡唐の寂昭法師(ワキ飯富雅介)が石橋を渡らんとする噂に、文殊菩薩に仕える仙人達(オモアイ井上松次郎・アド

アイ鹿島俊裕・今枝郁雄)は一大事とばかりに急遽談合。文殊はその無謀を諫め、寂昭の意志も忖度し、獅子の舞を見せ帰国させるが、就いては仙人達にも陪観が許されるとあって、仙人達の賑やかな酒宴の場が愉快。観世流の小書「大獅子」は白、赤、複数ずつ出ることがあるが、やがて白(シテ久田勘鷗病気のため神戸から師筋の上田貴弘の代勤)赤(ツレ久保信一郎)の二頭が出る。共に偉丈夫、紅白の牡丹咲き乱れる舞台狭しと豪快に大きく舞上げ圧巻。

6月「名古屋宝生会」『邯鄲』盧生(シテ和久莊太郎)一畳台上での楽の鮮やかさ、夢と現実の狭間を瞬時に替える所謂飛



〔石橋・大獅子〕
名古屋能楽堂五月開館記念特別公演
左ツレ 久保信一郎、右シテ 上田貴弘
撮影 杉浦賢次 能楽写真家協会会員

び込みも派手にならず慎重に横臥の手堅さに好感がもてる。子方、和久凜太郎の「わが宿の」に注目したが夢の舞、しっかり舞い上げ先が楽しみ。「青陽会研究会」『柿山伏』(シテ井上蒼大)。渴きに耐えられず路傍の柿に不図目がゆくと、畑主(アド井上松次郎)不在らしく、止むなく木に登れば見つかり、これは面白いとばかりに畑主、様々な動物の生態模写をやらせ散々に愚弄。親子共演の実は、ほのぼのした可笑味。

7月「定例公演」『景清』日向に遠島の、今や盲目の景清(シテ長田 驍)藁屋の内、落魄の身を曝す恥辱は「松門ひとり閉ぢて」と呻吟する苦衷の心情、聞かせる。従者(ワキツレ橋本 幸)を伴い父・景清を尋ねる娘・人丸(ツレ松井俊介)、里人(ワキ飯富雅介)の案内で、沙門帽子・小格子厚板・白大口・黒水衣の姿で出る景清と再会、娘の所望する八島での合戦譚を「判官なればとて鬼神にてもあらばこそ」と剛直な喜多流らしい力演。なお、従者は一般にシテ方をトモとするが、ワキ方がツレで務めるのが珍しい。

10月、名古屋宝生会の功労者であった祖父の内藤泰二27回忌追善に自ら立ち上げた「飛座・第一回公演」は『道成寺』(シテ内藤飛能)、3月26日、東京での披きに次ぐ再演。眼目の小鼓は後藤嘉津幸。慎重に踏む乱拍子が如何にも初々しい印象は、舞になり鐘をキツ見据える所などの気魄は瘦身長軀の凄味。鐘

入も無難に当地で上々の御披露目。

10月「定例公演」『泣尼』貰い泣きを誘わせるため、お布施を種にサクラに泣尼(アド野村又三郎)を雇う僧(シテ野口隆行)、法話が佳境に入ってもいつかな泣く気配をみせぬ泣尼、あろうことか野放図にも眠り込み、法話が済めばお布施を要求する厚かましき。苛立つ僧に呆気にとられる施主(アド松田高義)、三者調和のとれた舞台だが泣尼の泣きが少々足りなかったのでは。

12月「12月特別公演」『木六駄』主命で大雪の日に木と炭各六駄、計12頭の牛を独りで追い、その上、酒一樽を持参して都の伯父方へ届けねばならない太郎冠者(シテ松田高義)、当今ならパワハラの誇り免れないが、わりとあっさり引き受ける好人物ぶり。道行の牛追いぶりもさほど波瀾みられず淡泊。峠の茶屋(アド野村又三郎)で遣いの酒に手をつける仕儀に至り、酒宴なると、肴の小舞は野村又三郎家は「柳の下」。九世三宅藤九郎が鷺流から和泉流へ「鶉舞」を移したが、「鶉舞」程の諧謔味のある多彩な動きは無く、曲全体も平凡。

悲報は、終生京都・名古屋の能楽界で活躍、シテ方五流で家柄が尊重され、職階制の厳しい観世流にあって稀有とも言える職分に登りつめた邦謡会主宰・尾州座同人の梅田邦久師が10月死去。享年86歳。謹んで御冥福をお祈りする。

邦舞・邦楽 ▶ 北島 徹也(CBCテレビ 事業部 専任局長)

今年の3月に中日劇場が閉場し4月に御園座が再開場することは、当地方の邦舞・邦楽界にも少なからず影響がある。改修工事で愛知県芸術劇場など順ぐりに使えなくなってホール不足が叫ばれ、他の分野とも会場は必死の取り合いである。

邦舞では西川好弥が「よし乃会」(4/15 市民会館ピレツジ)で『流星』を踊り、次回から甥の好之介に主宰をさせるとのこと。長秀・長寿の「長寿之會」(5/27 市民会館ピレツジ)も長秀が受け継ぎ6年、新たな創作『神代結縁契』に日芸同窓の異流、異分野と共に挑戦し、「名古屋をどり」(9/7~11 中日劇場)は家元・千雅が『茂登木』『宿の月』『助六好尾張錦絵』そして『紀州道成寺』と大車輪、『助六』は地方に素人も参加させ、SNS発信も取り入れるなど古典に風穴をあける試み。真乃女は『時雨西行』、菊次郎は『山めぐり』で厚みを見せ、その菊次郎「菊水会」(11/28 中日劇場)は『むらぎも杖』に細かな情愛と舞踊劇の姿を見せた。

五條園美「珠園会」(7/23 中日劇場)は1月に亡くなった五條珠園の追善として、新作『梅津の里横笛抄』を菊次郎と、麗『大原女』、美佳園『河』、園八王ほか「江島生島」など弟子も光る。

「赤堀加鶴舞踊会」の新作は『光奏風』(7/1 市民会館ピレツジ)。三番叟、鳳凰、猩々、そして獅子の四抄を、古典をベースとしながらも現代に訴える舞台作品に仕立てた。

工藤倉健は「工藤会」(8/27 中日劇場)で幕開きの『外記猿』から、寿々弥の芸者で『俄獅子』の割間、彩夏の牛若丸で『橋弁慶』の弁慶。扇弥は『静と知盛』で気を吐く。

稲垣流「豊美会」(8/27 市民会館ピレツジ)は『三曲松竹梅』

を友紀子、舞比、詩麻で、山路曜生の作品『うみやまの歌』も詩情があり、5歳の依都『お染久松』の出来に驚嘆。友紀子は名古屋日本舞踊協会「新春舞初め会」(1/29 アートピアホール)の『松の功』の風格が印象に残る。

内田寿子は「内田流舞踊発表会」(4/8 市民会館ピレツジ)で『雨の四季』、有美は『若獅子』。花柳朱実は「ちょっと能楽堂で…」(7/23名古屋能楽堂)で『静と知盛より』『神田祭』を踊ったが、「御園座を盛り上げ隊・勝手連」の旗振り役としての活躍は今年も。第6回(2/26 居東屋)、第7回(7/23 能楽堂)の公演を数え、いよいよ大団円に近づいた。この活動も流儀などの敷居を超えた芸どころ名古屋ならではの交流の成果である。

出雲草「語り舞 9th Live 一愛のかたち」(10/5 熱田文化小劇場)は源氏物語『朧月夜』をテーマにした。山村楽乃は「座敷舞の会」(11/23 芸文小ホール)で『雪』『珠取海女』を披露、その表現力に対し名古屋市民芸術祭特別賞(精励賞)を得た。



山村楽乃「座敷舞の会」

さまざまな古典芸能を学ぶ人たちを「芸術鑑賞会～日本の伝統文化を未来の子どもたちへ」（9/3 アートピアホール）としてまとめた瑞鳳澄依の努力も評価、澄依は『花がたみ』に挑んだ。また名妓連も河文座（5/17、18 河文）で名妓をどり以来の伝統を守る。

長唄は彌四郎と見佳の『船揃』、かしの『外記猿』などを出した杵屋見音代、見佳「見音代会」（3/26 中電ホール）、杵屋勝桃と最近海外との音楽交流にも努力している勝千華が「勝桃会」改め「桃華の会」（4/9 昭和文化小劇場）を立ち上げ、五代目杵屋三太郎十三回忌追善「杵三会」（10/1 今池ガスホール）、杵屋六秋・六春「秋栄会」（11/18 今池ガスホール）といずれも小学生の弟子が見られ、将来に期待したい。六秋・六春は「おやこ会」で『靱猿』『八犬伝』を、「杵三会」の手向けの曲は『老松（三下がり）』の初代三太郎作曲の三味線替手だった。また、「三味線やそすけ」として親しまれた杵屋彌叟の追善会（10/27 興正寺）も催された。

三曲は、岡崎美奈江が「箏・三絃リサイタルⅢ」（11/7 電気文化会館）で『八島』に挑んだ。正絃社は「創造」のDNA-和楽の響き」（11/11 しらかわホール）で野村正峰以来の野村家の音楽創造の実力をその高い演奏技術を会員とともに聴かせて圧巻、名古屋市民芸術祭賞を得た。



正絃社「創造」のDNA-和楽の響き

名古屋邦楽協会も例年の「名古屋長唄大会」（3/19 名古屋市芸術創造センター）、「名古屋小唄大会」（4/16 中電ホール）、「名古屋邦楽大会」（11/23 中電ホール）を催し、「名吟会」（11/25 今池ガスホール）では御園座新社長の宮崎敏明氏が『五條橋』を、副会長の長谷川栄胤氏が『助六』を披露、鶴澤津賀寿の出演を得た川地重幸氏の『寺子屋の段』は素人離れた芸であった。

美術 田中 由紀子(美術批評/ライター)

画廊が現代美術を牽引した1980年代は「画廊の時代」、公立美術館が相次いで設立され、画廊に代わって地域の美術を支援する役割を担った1990年代は「美術館の時代」と称されている。そして、2001年の「ヨコハマトリエンナーレ」を皮切りに、「越後妻有アートトリエンナーレ」「瀬戸内芸術祭」「あいちトリエンナーレ」「札幌芸術祭」と国内各地で芸術祭が開催されている2000年代以降は、「トリエンナーレの時代」と呼ばれている。2017年も、「北アルプス国際芸術祭」「種子島宇宙芸術祭」「奥能登国際芸術祭」「Reborn-Art Festival」と、新たに始まった芸術祭が少なくない。東海エリアでも、春日井市で行われた「あいちトリエンナーレ地域展開事業 となりの人々」をはじめ、「アッセンブリッジナゴヤ」「ニシオンナーレ」「農村舞台アートプロジェクト」「亀崎せこみち展」「亀山トリエンナーレ」など、こうした芸術祭の地域版が各地で行われている。

これらの「ミニトリエンナーレ」が、美術館や画廊に足を運ばない人々にも訴求し、アートを見る層を広げている点では評価できるが、裾野にいる人々のボトムアップまでは考えられていないのが現状である。また、「ミニトリエンナーレ」の多くが、既存の展示スペースではない空き店舗などを活用したまちなか展開をしているにもかかわらず、地域性や独自性を発揮しきれずにどこも似たり寄ったりとなっている。さらに、「ミニトリエンナーレ」が林立した結果、アートファンはアートイベント巡りに忙殺され、画廊を訪れてじっくりと作品に向かい合う人が少なくなっているという話も耳にするようになった。2020年開催の東京オリンピックを境に、国内のこうした動向が収束に向かうことが予想されるが、そんな

中、新たな展開を模索する「ミニトリエンナーレ」にも注目したい。これまでの旧旅館を会場とした展覧会から、オルタナティブな学びの場としての「足助 de ハイスクール」に移行した「足助ゴエンナーレ」、旧街道の古い家屋や空き店舗を使った展覧会から、ワークショップを中心とした取り組みを進めた「きそがわ日和」など、展覧会をきっかけに広がったアートへの興味・関心を教育的な取り組みにより深化・継続させようとする試みに期待したい。

美術館の企画展では、愛知県美術館「フィンランド・デザイン展」と豊田市美術館「奈良美智展」が、普段は美術館に来場しない層を集客し盛況。美濃加茂市民ミュージアム「河村のみ When I



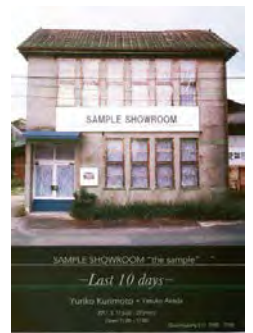
「河村のみ When I am laid in earth -私が大地に横たわるとき-」より

am laid in earth—私が大地に横たわるとき—」は、いま展示室内にいる鑑賞者、森の中でパフォーマンスをする作家自身、市内の住宅街を定点から撮影した風景のそれぞれの映像が、一日の同じ時間軸で重なり合うという実験的かつ見ごたえのある展示だった。

ギャラリーの活動では、ケンジタキギャラリーの今村哲新作展「同じ大きさの函が無数に入った同じ大きさの函」、ガレリアフィナルテ「豊嶋康子展」、スタンディングパインの設楽知昭展「赤い絵」など、中堅からベテラン作家の充実した発表が目立った。

最後に、10年間手を入れ続けてきた瀬戸の「SAMPLE SHOWROOM “the sample”」の最後の公開が記憶に新しい栗本百合子氏が、年末に亡くなったことにも触れておきたい。取り壊し前の多くの建物が彼女により異化され、つかの間の輝きを放つ

たことは人々の記憶から消えることはないだろう。



栗本百合子+浅田泰子
「SAMPLE SHOWROOM
“the sample” Last 10 days」DM

文学 清水 良典(文芸評論家・愛知淑徳大学教授)

いくつか淋しい出来事を記さなければならない。

まずは、2008年から10年間続いたイベント「ブックマークナゴヤ」が、2017年をもって終了したことである。千種区の書店「ON READING」や古書店「シマウマ書房」の店主らが中心となって、市内の主な書店はもちろん、カフェや雑貨店まで巻き込んで、SNSのネットワークから広がった行事だったが、10回を区切りとすることになったらしい。作家や詩人、ライターによる朗読会やトーク・ショー、ツアー、応募者持ち寄りの古本市など、スタッフ全員が手弁当で訪れた人たちと本を媒介としたコミュニケーションを楽しむという、全国的にも稀な価値のある行事だった。これを契機に撒かれた種が、今後は別のかたちで花開くことを心から願う。

もう一つの淋しい話題は、名古屋で出版社を創業し、文化を育て発信するリーダーとなっていた風媒社の稲垣喜代志氏が、10月28日に急逝したことである。福島原発事故以前から原発の危険性を訴える書籍を刊行してきたことに象徴されるように、



故・稲垣喜代志氏

に、権力に媚びない反骨の姿勢と、地域の文化を後押しする情熱を、妥協なく押し通した84歳の生涯だった。昨年の清水信氏の死去のショックと寂寥にも劣らない大きな損失であるといえよう。

その稲垣が痛快無比の評伝「怪人・加藤唐九郎伝説」を9回まで連載していた硬派の同人雑誌「遊民」もまた、秋に発刊された第16号をもって終刊した。三嶋寛ら同世代の書き手は、いつも同時代の問題に立ち向かう気概にあふ

れていたが、高齢化には勝てなかったらしい。山下智恵子の連載小説「サダと二人の女」が無事完結したことが、せめてもの慰めである。1936年に愛人を絞殺したのち性器を切断して持ち歩いて逮捕された女性である、阿部定を軸に、性に翻弄された二人の女の人生を絡めて描いたこの長編は、女性が常に男性の欲望に隷属させられてきた近代女性史を重ね合わせた近來の収穫である。

また新しく始まったこともある。数年前まで9回実施されていた「ショートストーリーなごや」に代わって、名古屋市による新事業「コトノハなごや」の公募と選考が行われた。インスタグラムやSNSを使いこなす若い世代に焦点を当てた公募で、地元出身作家の中村航や吉川トリコらが審査に当たった。伝統を背負った書物・文学と先端技術との出会いが、これから新しい表現を生み出すことは間違いない。その土壌となれるようなイベントに成長してほしいと願う。



ブックマークナゴヤ2017 円頓寺商店街での古本市の様子

平成29年度 名古屋市芸術賞

平成29年度名古屋市芸術賞は、次の方が受賞されました。「芸術特賞」は、長年にわたり優れた芸術創造活動を行い、かつ、近年における活動が顕著で、名古屋市芸術文化の振興に大きな功績のあった方に、「芸術奨励賞」は、継続的に活発な芸術創造活動を行い、かつ、将来の活躍が期待され、今後とも名古屋市芸術文化の振興に寄与することを期待できる方に贈られるものです。

芸術特賞

加藤 大博 美術【現代美術】



昭和32(1957)年、愛知学芸大学(現愛知教育大学)美術科卒業。昭和31(1956)年以降、国内だけでなく、海外でも個展を多数開催する他、新制作展、シェル美術賞展など国内の展覧会に、また、昭和59(1984)年以降、多くの国際美術展、国際版画展に出品している。

昭和47(1972)年、愛知県の内海にて開催された「72時間の行為」展に企画参加。幼少期の戦争体験から広島や原爆などをテーマとした作品制作が評価され、平成元(1989)年、ポーランド・ワルシャワにてInternational EKO Artに招待参加、併せて個展を開催。平成2(1990)年、スペイン・カダケスでの個展の際には、ポルトリガットの入江にある、タリの晩年の住居の屋上にあるタマゴのオブジェに衝撃を

受け、タマゴをモチーフとした制作を始める。平成8(1996)年には市内にて「点によるタマゴ達」展を開催し、同年ポルトリガットにてタマゴのオブジェ約60点を海上に浮かべるインスタレーションを実現した。タマゴのオブジェは平面、立体モニュメント、インスタレーションと展開が幅広く、近年はコンピューターで制作するシグレー版画と呼ぶ作品群「復活・再生のタマゴ達」を制作している。

愛知県内の学校や教育施設などにおいて、陶壁、緞帳等を多数制作設置。平成14(2002)年には、名古屋市千種文化小劇場開館記念こけら落としにおいて、「誕生・祈り」をテーマに演劇、音楽、舞台会場の3分野が連携し、舞台会場の造形を担当。当地域の現代美術をけん引してきたその功績は多大である。

芸術奨励賞

上山 明子 美術【乾漆彫刻】



愛知県立芸術大学大学院在学中、人体像を乾漆素材で表現研究するとともに、山崎隆之氏(愛知県立芸術大学名誉教授)のもと仏像の保存修復に携わり、古典彫刻の技法から学んだ造形や漆の魅力から自身の制作表現を追求する。同大学院卒業後は、母校の中部大学春日丘高等学校や、名古屋経済大学市邨高等学校において非常勤講師として、後進の指導にあたりながら制作活動を続け、毎年国展で作品を発表している。

妊娠・出産を機に「いのち」をテーマに子どもや蓮をモチーフにした彫刻を作り始め、平成22(2010)年第84回国展にてF氏奨励賞を受賞。平成25(2013)年には個展「上山明子彫刻展-いのちあるかたちを求めて-」を開催。同展ではワークショップを企画し、古典技法を

体験できる機会を設け、漆の魅力の発信に尽力した。また、平成21(2009)年から名古屋市東山植物園植物会館において、所属する彫彫会主催「緑の中の彫刻展」企画造形教室で造形指導を行っている。

東京藝術大学美術教育研究室で彫刻制作や美術教育に携わってきた経験をもとに、美術教育の理論、教育現場における美術の活用的重要性について研究している。研究誌への掲載、研究大会での口頭発表や展示発表を積極的に行う他、大阪教育大学において教員を目指す学生を対象に、日本の美術に触れ、技法を学ぶ講座も実施するなど、乾漆彫刻を通じて後進の育成にも注力しており、今後もさらなる活躍が期待される。

北住 淳 音楽【ピアノ】



東京藝術大学音楽学部ピアノ科卒業後、昭和58(1983)年から60(1985)年、平成7(1995)年から8(1996)年の二度にわたりハンガリー国立リスト音楽院に留学。昭和60(1985)年には、第1回マルサラ国際コンクール、第36回ヴィオッティ国際コンクールにてディプロムを受賞。昭和61(1986)年から演奏活動をはじめ、平成4(1992)年に津市文化奨励賞、平成16(2004)年に三重県文化奨励賞を受賞。室内楽や声楽、合唱ピアニストとしても支持を集め、近・現代の作品、室内楽作品に数多く取り組んでいる。名古屋市では電気文化会館、しらかわホール、5/RHall&Galleryなどにて出演。ソロ・リサイタル、アンサンブル、伴奏など幅広い演奏活動を行っている。また、平成5(1993)年よりピアノ三重奏団「トリオ・ミンストレル」ピアニ

ストとして、当地域の他、東京や大阪、福岡など、全国の主要都市でコンサート・ツアーを開催。平成6(1994)年に結成した「MiA(エム・アイ・イー)」では演奏家・作曲家とともに、新作の初演や異分野との協働創作、ホームミュージックの再興などに尽力している。

平成元(1989)年、愛知県立芸術大学大学院音楽研究科修了後は同大学にて後進の指導にあたり、現在は音楽学部教授を務める。大阪大学や京都大学、神戸大学等でもレクチャーコンサートに出演する他、平成28(2016)年には名古屋市文化振興事業団・愛知県立芸術大学ピアノコースとの共催でトーク・コンサートを行うなど、当地域を中心として全国各地で今後も活躍が期待される。

山村 楽乃 伝統芸能【日本舞踊】



6歳より日本舞踊を習い、18歳で師範名取を習得する。この頃から後進の指導にあたる中、山村楽正師の地唄舞に魅了され、山村流に入門する。

平成23(2011)年に「明珠会」を結成。「観祥会」や「舞の会」など多数公演を主催する他、「座敷舞の会」では各回のテーマに合わせて専門家を招き、解説付きで日本舞踊を様々な角度から読み解くなど、出演だけでなく企画演出にも力を入れている。

当地域を中心に、東京や大阪での公演に参加する他、国内のみならず海外においても日本舞踊の魅力の発信に取り組んでいる。平成26(2014)年には当地域の日本舞踊、箏曲、三絃、民謡、端唄など各界で

活躍する方々とともにスリランカにて公演を開催。同年には市内にて開催する「第5回アジア文化芸術祭」において、スリランカとの文化交流を行った。さらに平成27(2015)年にはハワイの病院や寺院において公演した他、現地の子ども向けに伝統芸能を体験するワークショップを開催している。

個人教室にて後進の指導にあたる傍ら、平成26(2014)年より朝日カルチャーセンター名古屋教室の講師を務める。平成28(2016)年には椙山女学園大学において日本舞踊の魅力や作法を学ぶ特別講義を行った他、幼稚園においても講師を務め、幅広い世代への普及活動を行っており、今後もさらなる活躍が期待される。

名古屋市民芸術祭2017

名古屋市民芸術祭賞

名古屋市文化振興事業団では、平成29年10月から11月の2ヶ月間にわたり、全25事業(主催事業5、参加公演20)に及ぶ「名古屋市民芸術祭2017」を開催しました。その参加公演20公演(音楽7、演劇5、舞踊4、伝統芸能4)の中から、特に優秀な公演に「名古屋市民芸術祭賞」を、また、特に表彰に値する公演に対して「名古屋市民芸術祭特別賞」を授与しました。

名古屋市民芸術祭賞(1公演)



11月11日(土)
三井住友海上 しらかわホール

伝統芸能部門

そうきよくせいげんしゃ

箏曲正絃社 野村正峰生誕90周年記念
“創造”のDNA—和楽の響き

高いレベルの演奏技術に裏打ちされた庄巻の合奏に加え、野村正峰氏の業績を正しく受け継ぎ、さらに新しい曲を披露するなど、野村家親子三代のストーリーとして仕上げ、よく練られた舞台をつくり上げた。滑らかな進捗とともに、わかりやすい構成で観客を飽きさせず、誰もが最後まで楽しめる上質な演奏会であった。

プロフィール

- | | | | |
|-----|--|-----|--|
| 53年 | 野村箏曲教室(正絃社の前身)開設 | 02年 | 二代家元継承公演(市民会館)
(二代家元・野村祐子) |
| 58年 | 第1回演奏会開催(愛知文化講堂)
以後、市内各所にて定期公演開催 | 13年 | 野村正峰作品展(しらかわホール)で
名古屋市民芸術祭特別賞(企画賞)受賞 |
| 65年 | 箏曲正絃社 設立(初代家元・野村正峰) | 15年 | 正絃社創立50周年記念「春の公演」
(市民会館) |
| 72年 | 名古屋市民会館へ定期公演会場を移して開催 | 16年 | 正絃社合奏団30周年記念コンサート
(あいちトリエンナーレ公募プログラム)
ANET芸創コラボ「曾根崎心中」にて
セントラル愛知交響楽団と共演 |
| 87年 | 正絃社合奏団(団長・野村祐子)を結成
第1回演奏会(芸術創造センター) | | |
| 88年 | 昭和62年度愛知県芸術文化選奨文化賞受賞 | | |
| 89年 | 野村正峰作曲生活四半世紀記念演奏会
(テレビアホール) | | |

名古屋市民芸術祭特別賞(5公演)



10月7日(土)
電気文化会館ザ・コンサートホール

音楽部門
(企画賞)

わたなべしゅんこ

渡部純子ソプラノリサイタル2017「言葉×音楽×芝居」

ロマン派の歌曲を、女声・男声を織り交ぜた構成で披露し、聴衆を魅了した公演であった。また、狭い空間をうまく使い、オペラ「トスカ」の世界観を魅力的に表現することに成功した。いろいろな作曲家の曲を聴きやすくプログラムし、飽きさせず聴かせた点が光る、工夫された演奏会であった。

プロフィール

- | | | | |
|-----|--|-----|------------------------------|
| 96年 | 国立音楽大学声楽科卒業 | 14年 | 第9回名古屋音楽ペンクラブ賞受賞 |
| 06年 | 米国ニューヨーク・マンハッタン音楽大学院修了 | 17年 | 愛知県芸術文化選奨新人賞受賞 |
| 07年 | アーティスト・インターナショナルコンクール特別賞受賞
コネチカット・オペラ劇場「蝶々夫人」タイトルロール出演
(米国オペラデビュー) | | 現在、名古屋音楽大学・愛知県立芸術
大学非常勤講師 |
| 10年 | 在米国連代表部主催天皇誕生記念祝賀会にて
国歌「君が代」独唱 | | |
| 13年 | 帰国記念リサイタル開催
(電気文化会館ザ・コンサートホール) | | |



11月18日(土)
電気文化会館ザ・コンサートホール

音楽部門
(奨励賞)

ごしまふみよ

五島史誉ピアノリサイタル「色をさがして」

卓越したテクニックによる演奏で、レベルの高い、聴きごたえのある演奏会であった。特に「シャコンヌ(左手のための)」での演奏は作品の世界観を見事に表現し、洗練された演奏を披露した。公演サブタイトル「色をさがして」のとおり、幅広く色鮮やかなプログラムで聴衆を惹き込み、誰もが楽しめる聴きやすい空間をつくり上げた。

プロフィール

- | | | | |
|-----|--|-----|---|
| 03年 | 東京藝術大学音楽学部器楽科卒業 | 17年 | 宗次ホール会館10周年記念公演
モーツァルト後期ピアノ協奏曲(全8曲)
連続演奏会においてソリストを務める |
| 06年 | folk/vanguard音楽大学卒業
カッシーナ・デ・ベッキ国際ピアノコンクール第2位受賞
フィリップ・トレヴィザン国際ピアノコンクール
第2位受賞 | | 現在、岐阜県立加納高等学校音楽科・
東海学園大学・岐阜聖徳学園大学短期
大学部・名古屋音楽大学非常勤講師 |
| 14年 | ファーストアルバム「In der Nacht」リリース | | |
| 16年 | ソリサイタル開催 | | |



11月25日(土)~26日(日)<3回公演>
港文化小劇場

演劇部門 (精励賞)

げきだんなごや 劇団名古屋創立60周年記念公演 第2弾「あ・り・が・と」

差別や偏見への怒り、反戦の願いを主要テーマにした、メッセージの鮮明な作品を実直に作り上げ、温かい気持ちに満ちた舞台となった。出演者の堅実な演技も秀逸で、好感が持てた。一貫して庶民や弱者の視点に軸足を置き、名古屋の演劇界において60年の長きにわたりエネルギーに作品を制作・上演し続けてきたことは賞賛に値する。

プロフィール

- 57年 劇団名古屋設立
「黄金の丘」「袈裟の良人」上演
- 62年 「荒野にうたうとき」シリーズ第1部
以降10年間8部まで上演
- 91年 創作劇「ブラジルの花嫁」で名古屋市民芸術祭賞
受賞

- 02年 「こんにちは、母さん」で名古屋市民芸術
祭賞受賞
- 06年 名古屋市民芸術奨励賞受賞
- 07年 創作劇「セメント樽の中の手紙2007」
上演
- 17年 創作劇「稲垣親切堂」上演



10月22日(日)<2回公演>
青少年文化センターアートピアホール

舞踊部門 (熱演賞)

なづる 名鶴ダンスカンパニー創立35周年記念公演「NOUS 17th」

全てのダンサーがアンサンブルよく熱演し、整った群舞を見せた。構成力に若干の物足りなさを感じたものの、高いレベルのダンスパフォーマンスで観客を魅了することに成功した。照明などの優れたスタッフワークで、ダンサーの鍛えあげられた肉体から生まれる底力を十分に映し出す舞台だった。

プロフィール

- 84年 名古屋少年少女合唱団中国公演振付/名鶴ひとみ
- 86年~ 中日文化センター講師/名鶴ひとみ
- 87年 初回公演「Nous 1st」開催(中日劇場)
(以降、隔年開催)
- 92年 第1回研究発表会開催(以降、毎年開催)
- 04年 にっぽんど真ん中まつり「チームマツザカヤ」
振付/名鶴ひとみ(2年連続10位入賞)
- 07年 「パチンコ大衆文化・福祉応援賞」受賞/名鶴ひとみ

- 09年 「Nous 14th」で名古屋市民芸術祭
特別賞(エンターテインメント賞)受賞
- 11年 岐阜市教育委員会より「文化に貢献し
た」とし表彰/名鶴ひとみ
- 14年 日本ジャズダンス芸術協会主催第25回
JDAダンスコンクール「日本振付家協
会賞」受賞/名鶴ひとみ



11月23日(木・祝)
愛知県芸術劇場小ホール

伝統芸能部門 (精励賞)

みょうじゆかい 明珠会第25回記念公演 第6回日本文化と舞「座敷舞の会」

地唄舞 山村流の「雪」と「珠取海女」という対照的な二つの難曲を一人で踊りきり、特に「珠取海女」での表現力が際立つ舞台であった。また、地唄舞の世界観を現代の観客に伝えるために様々な工夫を凝らし、観る者を飽きさせることなく最後まで惹きつけることに成功した。

プロフィール

- 76年 多摩美術大学付属多摩芸術学園中退
- 06年 第1回「舞の会」開催
- 11年 山村案乃「明珠会」創立
第1回日本文化と舞「座敷舞の会」開催
- 14年 愛知芸術文化協会(ANET)入会
- 15年 山村案乃「観祥会」開催

- 15年~ 大阪ビクトリア・キッズ・イングリッシュアカデ
ミー講師
- 16年 CBCクラブ入会

授賞式

名古屋市芸術賞、名古屋市民芸術祭賞の授賞式が下記のように開催されました。

日時 平成30年2月1日(木) 15:00

会場 名古屋市役所本庁舎5階 正庁



名古屋市芸術賞



名古屋市民芸術祭賞



名古屋市文化基金
Nagoya Culture Fund

なごやの文化を褒められると、うれしい。

文化事業への寄附金を活用し 創造性と都市の魅力を高める 文化力によるまちづくりを目指しています。

支援と育成

芸術や文化活動の支援と育成をしています。

参加と交流

みなさまが参加し交流できる事業を展開しています。

芸術の鑑賞

文化や芸術のご紹介や鑑賞をしています。

情報の発信

さまざまな芸術や文化の情報を発信しています。

ご寄附の際は、インターネットを利用したクレジット決済(クレジット寄附)もご利用いただけます。

ご寄附のお問い合わせ | ご寄附は、いつでも受け付けております。



名古屋市文化基金 Eメールアドレス
a3172@kankobunkakoryu.city.nagoya.lg.jp



名古屋市観光文化交流局
文化歴史まちづくり部文化振興室
TEL: 052-972-3172



公益財団法人
名古屋市文化振興事業団
TEL: 052-249-9390

税の控除について | この寄附金は、ふるさと納税の対象です。

○個人の場合 | 確定申告によって、以下の金額を所得税及び個人住民税から控除することができます。

所得税(所得控除)

寄付金額
又は
総所得の40%
のいずれか低い金額
○ 2千円
⇒ 寄付金控除額

* 特別控除額 = (寄附金額 - 2千円) × (100% - 10% (基本分) - 所得税率)

個人住民税(税額控除)

寄付金額
又は
総所得の30%
のいずれか低い金額
○ 2千円
× 10%
+ 特別控除額
⇒ 寄付金税額控除額

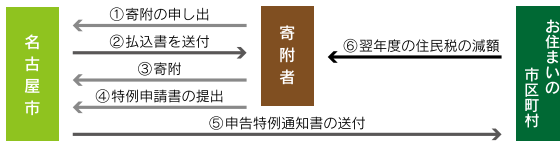
※ 所得税率は復興特別所得税を含めた率 [注意] 特別控除額は 所得割額の2割を限度とします



○法人の場合 | 寄附された金額を法人税法(第37条第3項第1号)の規定により損金算入することができます。

「ふるさと納税ワンストップ特例制度」をご利用いただけます。

ふるさと納税をした翌年に確定申告を行うことが必要です。ただし平成27年4月1日以降は、寄附時に「ふるさと納税ワンストップ特例制度」の申請をしていただくことで、確定申告をしなくても控除を受けられるようになりました。(特例制度は、給与所得者等の方で、確定申告の必要がない方、寄附先の都道府県及び市区町村が5団体以下の方に適用されます)
※ 確定申告には、この寄附金の領収書が必要となりますので、大切に保管してください



詳しくは、市公式サイト内 [名古屋市文化基金](#) [検索](#)



頼もしい味方をお探しですか？



集客・販促プランナー

アートディレクター

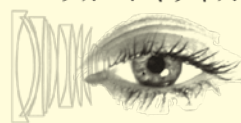
印刷コンサルタント

株式会社 駒田印刷株式会社 TEL(052)331-8881

〒460-0021 名古屋市中区平和2-9-12 http://www.kp-c.co.jp

舞台映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。
ハイビジョンで撮影し
ブルーレイディスクでお渡しします。



ビデオソフトの企画制作

有限会社 **エーワン・ビデオ・システム**
TEL(052)896-2256 FAX(052)896-4100

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。



◎年間6,480円で毎月お手元にお届けいたします。
◎毎月24,000部発行 ※東海地方の演劇・バレエ・音楽公演、各所顧客DM、他に配布

MP MANAGEMENT PRO 株式会社マネージメント・プロ

〒464-0850 愛知県名古屋市中区千種区今池1-14-11 CASA LUZ302
TEL(052)735-3151 FAX(052)735-3152 E-mail: mpoffice@pa2.so-net.ne.jp

業務内容

- ① 舞台の企画・制作マネージメント
- ② イベントの企画制作
- ③ 芸術団体のコンサルティング
- ④ 舞台・イベントの運営

WE MAKE YOU MOVE
感動をあなたへ

この領域を超えて最高のパフォーマンスを。

← 20Hz → 20kHz

A&V
PRO AUDIO & VISUAL & NETWORK

舞台音響・映像設備
設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する
株式会社 エーアンドブイ
〒464-0846 愛知県名古屋市中区千種区城木町二丁目98
TEL/052-761-5400 FAX/052-761-0909